

国土調査課

保存用

県北総合開発地域

---

# 土地分類基本調査

---

佐世保南部

5 万 分 の 1

国 土 調 査

長 崎 県

1 9 7 4

# 序 文

わが国は、近年、その国民総生産において世界の五指に数えられるまでに躍進する等飛躍的な経済発展をとげるにいたりました。

人と物との移動は激しく、伝統的な地域社会の構造は急激に変化しつつあります。この経済発展に伴い、いわゆる過密や過疎の地域現象、公害や交通問題等大きな社会問題が提起される状況にあります。

本県は、その恵まれた環境を保全しつつその特性を生かし、均衡ある県勢発展を目指して全県民が豊かで快適な生活を享受し得るよう、都市機能の充実、各産業の適正配置と発展をめざして諸政策を進めているところであります。

特に今回調査を実施する県北地域は本県でも大きな産炭地域であったが、エネルギーの流体化に伴い、人口も約16万人に激減した地域であり、経済基盤の確立をはかり大きく浮揚をはかるための諸政策が是非必要な地帯であります。

本調査はこのような諸政策を進めるに必要な諸調査のうち最も基礎的な「地形」「表層地質」「土壌」を主体とする土地条件を科学的総合的に調査することを目的として、国土調査法に基づく開発地域土地分類調査として、国土庁の国土調査費補助金を得て実施するものであります。

昭和48年度は「肥前小浜」「長崎」「大村」の3図幅を調査いたしましたが、49年度は「佐世保」「佐世保南部」「平戸」「早岐」（長崎県佐賀県協同）「唐津」（佐賀県長崎県協同）の5地域を調査し、今後も逐次整備して行く計画であります。

この調査の成果が広く関係者に活用されることを希望するものであります。この調査の実施にあたりご指導、ご助言を賜わった国土庁土地局国土調査課の方々をはじめ、調査に直接たずさわっていただきました調査者の方々、資料徴収調査等積極的にご協力をいただいた市町村並びに関係機関の方々に対し心から謝意を表する次第であります。

昭和50年3月

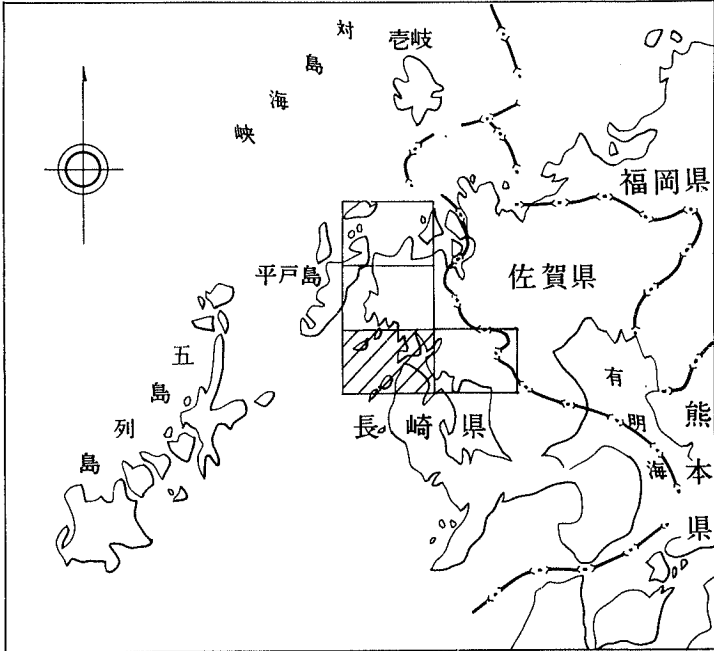
長崎県理事（土地担当）  
小田 浩 爾

# ま え が き

1. 本調査は長崎県開発地域土地分類基本調査作業規程に基づき、長崎県企画理事付企画主幹(土地対策担当)・農林部(総合農林試験場)・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので、調査の事業主体は長崎県である。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条1項4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣が刊行した5万分の1地形図を使用した。
4. 調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指 導	国土庁土地局 国土調査課	
総 括	長崎県企画理事付企画主幹(土地対策担当)	松 本 重 寿
開発関連調査	副主幹	坂 井 幸 夫
(開発規制)	〃	大 海 康次郎
	主 事	菅 生 剛
地形調査	長崎大学教育学部 教授	石 井 泰 義
開発関連調査		
(傾斜区分、水系・谷密度)		
表層地質調査	長崎大学教育学部 教授	鎌 田 泰 彦
開発関連調査		
(防 災)		
土 壤 調 査	長崎県総合農林試験場 科 長	小 野 末 太
	技 師	松 尾 俊 彦
協 力 機 関	長崎県関係各課および関係地方機関ならびに図幅内関係市町村	

# 位置図



# 目 次

## 序 文

まえがき

## 総 論

I. 位置および行政区画 .....	1
1. 位 置	
2. 行政区画	
II. 地域の特性 .....	2
1. 自然条件	
2. 社会経済条件	
III. 主要産業の概要 .....	8
IV. 開発の現状と方向 .....	9

## 各 論

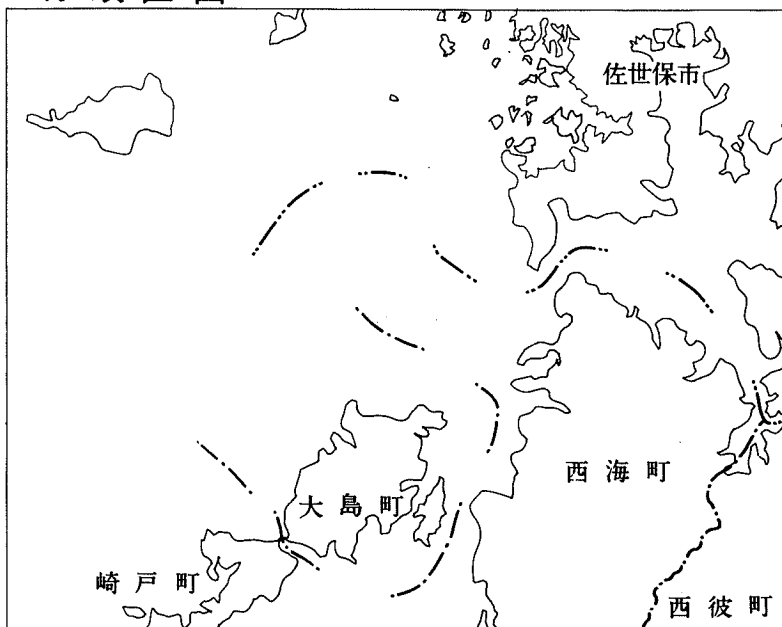
I. 地形分類図 .....	11
II. 表層地質図 .....	16
III. 土 壌 図 .....	26
IV. 傾斜区分図 .....	29
V. 水系谷密度図 .....	30
VI. 防 災 図 .....	32
VII. 開発規制図 .....	33

# 総論

## I 位置および行政区画

- 1 位置；「佐世保南部」図葉は、長崎県の北部に位置し、東 経  $129^{\circ}30' \sim 129^{\circ}45'$  北緯  $33^{\circ}00' \sim 33^{\circ}10'$  の範囲にあり、図葉内の陸地面積は  $126.79\text{km}^2$  である。
- 2 行政区画；本図案の行政区画は佐世保市、西彼杵郡西彼町、西海町、大島町および崎戸町の1市4町からなっている。

### 行政区画



第1表 図案内の市町村別面積

区分 市町村名	図案内面積		市町村面積 B (km <sup>2</sup> )	A/B(%)
	実数A (km <sup>2</sup> )	構成(%)		
佐世保市	40.29	31.8	294.77	16.1
西彼杵郡西彼町	12.64	10.0	69.45	18.2
西海町	55.33	43.6	67.29	82.2
大島町	13.12	10.3	13.12	100.0
崎戸町	5.41	4.3	14.24	38.0
計	126.79	100.0	413.87	30.6

資料：建設省国土地理院調べ（48.10.1現在） 但し、図案内面積については、県企画主幹調べ

## Ⅱ 地域の特性

### 1 自然条件

#### (ア) 気象条件

この地域は、九州型気候区のうち西海型気候区に属する気候であり、山間地及び一部の低地の地域を除き年平均16ないし17℃、1月の平均気温は6℃以上、また年間降水量およそ1700～1900mmに達しこのように、温暖多雨という点で最も九州的な気候といえることができる。

沿岸部では、特に温暖であるが、これは明らかに対馬暖流の影響である。また海岸線が複雑でその延長が長いので、それだけ海の影響を受けることも多く、そのため冬は暖かく夏は比較的涼しいといった海洋性の気候に恵まれている。

資料：九州の気候（福岡管区気象台）



第2表 月間平均最高気温

1℃

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
佐世保	11.2	11.8	14.0	20.5	23.0	26.8	31.6	32.2	26.3	22.4	16.1	9.6	20.5
亀岳	11.1	12.2	14.3	20.5	22.8	26.5	31.3	32.2	26.1	22.3	16.5	9.8	20.5
川棚	11.6	12.7	15.2	21.3	23.9	28.0	32.9	33.4	27.3	23.6	16.9	10.4	21.4
世知原	11.0	12.3	13.6	19.6	21.9	25.7	30.5	30.8	25.3	21.2	14.6	8.4	19.6

注 昭和48年1月～12月

第3表 月間平均最低気温

1℃

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
佐世保	4.6	4.0	6.0	12.1	15.0	18.4	24.4	24.9	19.4	14.5	8.1	3.0	12.9
亀岳	4.5	4.4	6.1	11.9	14.9	18.4	23.9	24.5	19.4	14.6	8.3	3.1	12.8
川棚	3.5	2.6	4.2	10.9	13.8	18.0	23.9	24.5	18.6	12.8	5.7	0.7	11.6
世知原	3.0	2.8	3.8	10.1	13.5	16.4	22.7	23.3	17.9	13.1	6.6	1.7	11.2

注 昭和48年1月～12月

第4表 月間降水量

1mm

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総量
佐世保	77	89	38	287	182	260	232	49	336	151	30	47	1,778
亀岳	82	113	59	397	210	276	167	53	364	115	41	83	1,960
川棚	86	108	51	350	215	287	237	34	338	73	41	62	1,882
世知原	89	79	37	370	197	252	230	68	351	176	42	57	1,948

注 昭和48年1月～12月 (資料) 長崎県気象月報(長崎海洋気象台)

第5表 観測所の位置

観測所名	所在地	東 経	北 緯	海 抜	摘 要
佐 世 保	佐世保市大黒町佐世保測候所	129°44' 1	33°09' 1	17m	図葉内北側
亀 岳	西彼杵郡西彼町亀岳小学校	129°48' 0	32°58' 4	80	図葉外南東側
川 棚	東彼杵郡川棚町川棚町役場	129°51' 9	33°04' 4	6	図葉外東側
世 知 原	北松浦郡世知原町世知原中学校	129°45' 4	33°15' 1	130	図葉外北側

(イ) 土地利用の現況

関係市町の土地利用の現況は第6表のとおりで、県平均耕地率17.6%に対し、平均耕地率19.2%と若干高いが、これは、西彼杵半島北部の西海町と西彼町の影響が顕著で、とりわけみかん樹園地が多いためである。

又 西海国立公園を擁し、九十九島の景観を生かしたレジヤーチン。リゾートの場としての観光開発に多いに期待されている。

西彼杵半島の外海に面したほとんどの地域は、耕地面積は狭く丘陵が多く、交通条件の不整備もあり、産業開発が進んでいないが、加えて唯一の産業であつた崎戸町、大島町の炭坑もエネルギー革命により閉山を余儀なくされ、一時人口も激減し沈滞したが、大島町に造船所の誘致決定に伴い、周辺の市町村に刺激を与え今後大いに発展する可能性をもちつつある。

林業については、林産物を供給する経済的な役割とともに、林地の適正な利用計画を推進し、国土の保全と水源かん養のための森林資源の保護、開発、さらに自然環境を十分生かし、鳥獣保護、風致景観の保全、保健保養等レクリエーション用地として確保する必要がある。

商工住宅は、国道35号線の沿線及び針尾工業団地の浦頭地区に多く伸びている。

第6表 土地利用の現況

(単位：ha. %)

区分 市町村名	総土地 面積(A)	耕地面積 (B)				耕地率 (B)/(A)	森林面積 (C)	森林率 (C)/(A)
		田	畑	樹園地	計			
佐世保市	24,977	2,389	1,241	680	4,310	17.3	11,042	45.6
西彼町	6,945	582	365	630	1,577	22.7	3,625	52.2
西海町	6,729	453	555	708	1,716	25.5	3,165	53.7
大島町	1,312	24	157	14	195	14.9	586	44.7
崎戸町	1,424	24	103	3	130	9.1	525	36.9
計	41,387	3,472	2,421	2,035	7,928	19.2	18,943	45.8
比率	100.0	8.4	5.8	4.9	19.2	-	45.8	-

資料；長崎県統計年鑑（49年）、長崎県の林業（49年）

## 2 社会経済条件

### (ア) 交通

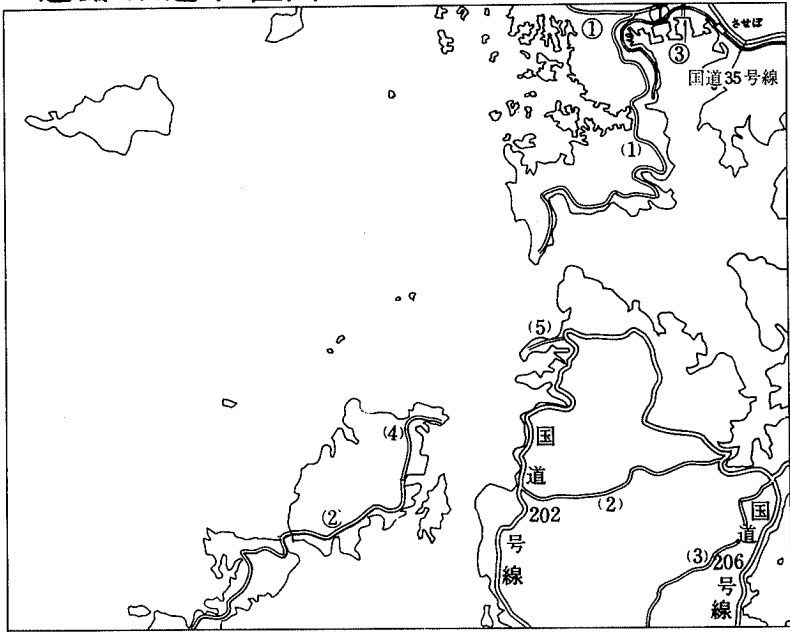
(イ) 本図葉地域は、国道35号、202号、206号線および3本の主要地方道、5本の一般県道により道路網が形成されている。

これらは、農業及び観光を主軸とした地域開発の動脈として重要な役割を果たしており、なかでも国道206号線（内海道路）は「夢のかけ橋」西海橋の開通に伴ない、長崎市と佐世保市を結ぶ交通の緩和に大い役立っている。

なお、国土開発幹線自動車道として福岡、唐津、伊万里、佐世保、西彼半島を縦貫して長崎に至るこれらの地域の一体的な開発を図るため西九州高速自動車の構想の実現が期待されている。

鉄道については、現在佐世保駅を中心に国鉄佐世保線と松浦線が走っているが、近く長崎新幹線が開通される見通しであり、この実現の運び等により、交通状況は大きな変化をもたらすであろう。

## 道路 鉄道 位置図



### 1. 道 路

#### 国 道

路線名	起点	終点	主要な經過地
35号線	武雄市	佐世保市	有田町、早岐
202号線	福岡市	長崎市	唐津市、伊万里市、 有田町、早岐 西海橋、西彼半島外 海
206号線	長崎市	佐世保市	時津町、西彼半島内 海、西海橋

#### 主要地方道

佐世保日野松浦線 ①      崎戸大島線 ②      佐世保港線 ③

一般県道

俵ヶ浦日野線 (1) 大田和港別当線 (2) 日ノ坂瀬川港線 (3)

黒瀬馬込港線 (4) 面高港線 (5)

2. 鉄 道

路線名	起点	終点	主要な経過地
佐世保線	肥前山口	佐世保	武雄、有田、早岐
松浦線	有 田	佐世保	伊万里、平戸口、佐々

(1) 人 口

図葉内の関係市町の人口は、昭和45年279,930人であり、人口密度は1km<sup>2</sup>当り平均676.8人と県平均383.4人に比し、人口密度の高い地域に属する。

しかし、これは佐世保市の992.9人、大島町の523.1人という特殊なものが含まれており、その他の町ではいずれも県平均を下廻っている。

人口の推移は、昭和35年から45年までの10年間で15%の減少を示している。

特に崎戸町で78.6%、大島町で63.9%の大巾な減で、両町はエネルギー革命により、炭坑閉山による人口流出が原因であり、過疎化の様相は深刻な問題を提起している。

その打開策として、大島町には、大阪造船等中核企業の誘致に成功し、又今後も真剣な努力が図られている。

第7表 関係市町村の人口推移

年次 市町村名	35年 (人)	40年 (人)	45年 (人)	45/ 35 (%)	45/ 40 (%)	人口密度 (45年) 1km <sup>2</sup> あたり(人)
佐世保市	262,484	247,069	247,898	94.4	100.3	992.9
西彼町	11,395	10,512	9,830	86.3	93.5	141.5
西海町	13,461	11,933	10,490	77.9	87.9	155.9
大島町	18,373	15,680	6,779	36.9	43.2	523.1
崎戸町	23,082	10,346	4,933	21.4	47.7	346.4
計	328,795	295,540	279,930	85.0	94.7	676.8

資料：国勢調査

### Ⅲ 主要産業の概要

本図葉内の関係市町の就業人口は、昭和45年128,390人で、産業別就業人口の構成をみると、第1次産業15.1%、第2次産業24.8%、第3次産業60.1%となっており、県平均の第1次産業28.7%、第2次産業22.8%、第3次産業48.5%に比し、第1次産業のウェイトが低く、第3次産業のウェイトが高い。しかし、これは佐世保市の就業構造の影響によるもので、佐世保市を除けば、第1次産業、なかでも農業就業者のウェイトが高い。

第8表 産業別就業人口の構成（45年）

（単位：人、%）

産業別 市町村名	総数	第一次産業				第二次産業				第三次 産業
		計	農業	林業 狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
佐世保市	113,956	11,243	9,957	45	1,241	29,638	747	9,006	19,885	73,075
西彼町	5,003	3,441	3,026	12	403	553	34	333	186	1,009
西海町	5,031	3,443	3,100	38	305	540	30	338	172	1,048
大島町	2,473	578	442	2	134	721	61	164	496	1,174
崎戸町	1,927	718	399	—	319	321	48	125	148	888
計	128,390	19,423	16,924	97	2,402	31,773	920	9,966	20,887	77,194
比率	(100.0)	15.1	13.2	0.1	1.8	24.8	0.7	7.8	16.3	22.9
県全体に 占める割合	18.5	9.7	10.9	8.3	5.6	20.0	7.1	19.5	22.1	22.9

資料：国勢調査

第9表 主要産業の状況

単位：百万円

区分 市町村名	農 業			漁 業		製 造 業			商 業	
	農家数 (45)	うち 専業 (45)	農業組 生産額 (47)	経営 体数 (47)	総漁 獲高 (48)	事業数	従業員	製造品 出荷額	商店数	年間販売額
	戸	戸	百万円	体	百万円	所	人	百万円	店	百万円
佐世保市	6,080	823	4,524	958	1,509	834	18,619	93,071	4,569	155,796
西彼町	1,539	275	1,365	234	127	13	115	40	143	875
西海町	1,749	419	1,980	247	165	21	225	364	123	1,108
大島町	470	62	159	205	123	19	494	890	106	1,107
崎戸町	366	78	136	250	110	16	139	1,709	130	530
計	10,204	1,657	8,164	1,894	2,034	903	19,592	96,074	5,071	159,416
県全体に 示める割合	10.8	8.8	10.8	10.2	5.2	16.5	21.5	21.0	19.1	20.8

資料：長崎県勢要覧（49年版）

## IV 開発の現状と方向

この地域は、海洋に面して「太陽と緑」の西海国立公園、西彼杵半島県立自然公園等を擁し、海、山、平地のすべてをあわせ持つており、海岸線の長い自然環境に恵まれた豊かな風土と美しい景観がある。

特に西彼杵半島北部は、西海橋開通とともに、交通条件もよくなり、天与の資源と果樹畜産、真珠類など地域産物と結んだ産業観光は、大きく発展するものと期待されている。

なかでもこの地域内で、佐世保から西海橋、長崎、愛野、雲仙、ロノ津へ通じる九州自然歩道が計画されているが、これは西彼杵半島の中央部を縦断することになり、一層自然環境が整備されることになろう。

又離島である崎戸、大島町はかつては、黒ダイヤの町として隆盛をきわめていたが、エネルギー革命により炭坑が閉山し、人口の流出が著しく、一時衰退したが、臨海性を高度に発揮した企業誘致に成功し中核の工業立町を図っている。

近く実現される長崎新幹線、西九州高速自動車道の開通とともに近代的交通網の整備がはかられ、加えて、針尾工業団地浦頭地区の造成、佐世保港整備、俵ヶ浦観光開発、西彼杵半島開発、過疎対策等総合的かつ広域的視野にたつた開発がおこなわれることによつて本地域は、自然環境を十分生かした飛躍的な発展が期待できる。



# 各論

# I 地形分類図

## 1 地形の概要

本図幅の東南部には西彼杵半島北部があり、東北部に弓張岳、烏帽子岳の山麓地と佐世保港西岸の丘陵地ならびに九十九島の丘陵地が所在する。さらに西南部に大島、崎戸島の丘陵地があり、西北部に黒島溶岩台地と九十九島丘陵地の延長部が分布する。

西彼杵半島の最北部は玄武岩からなる溶岩台地で、面高川、丸尾川を結ぶ線以北は低位台地をなし、佐世保湾北岸の俵浦台地もこの延長部に相当する。太田尾川と木場川を結ぶ線以北では中位台地、それ以南では高位台地をなし、さらにその南方に結晶片岩からなる古生層山地が起伏している。大島、崎戸島は第三紀層からなる丘陵地でボタによる人工改変地を伴っている。

佐世保港兩岸丘陵地は第三紀層上に残丘状の玄武岩を伴っている。その西岸は著しい溺れ谷の形状を示し、九十九島の島嶼群に移行している。

上に述べた地形の性状を細説するため次の地形区を設定する。

## 1 山地，山麓

- I a 小松岳山地
- I a' 同上山麓地
- I a-1 風高峰中起伏山地
- I a-2 白岳小起伏山地
- I b 虚空蔵火山地
- I b-1 虚空蔵小起伏火山地
- I c 釜敷山小起伏山地
- I d' 弓張岳山麓地
- I e' 烏帽子岳山麓地

丘陵地

- II a 太田和丘陵地
- II b 中浦丘陵地
- II c 大島・寺島丘陵地
- II d 崎戸島丘陵地
- II e 佐世保西南丘陵地
- II f 佐世保東南丘陵地
- II g 南九十九島丘陵地

台地

- III a 奥野上位溶岩台地
- III b 木場中位溶岩台地
- III c 針尾島中位溶岩台地
- III d 俵浦中位溶岩台地
- III e 横瀬低位溶岩台地
- III f 黒島低位溶岩台地

低地

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| IV a 佐世保低地（人工改变地） | IV b 崎辺低地（人工改变地） |
| IV c 面高川谷底平野      | IV d 高地川谷底平野     |
| IV e 丸尾川谷底平野      | IV f 太田和川谷底平野    |
| IV g 木場川谷底平野      | IV h 伊佐ノ浦川谷底平野   |
| IV i 馬込人工改变地      | IV j 間瀬人工改变地     |
| IV k 蛤低地          | IV l 福浦人工改变地     |
| IV m 水浦人工改变地      |                  |

## 2 地形細説

### 2-1 山地, 山麓 (I)

#### 2-1-1 小松岳山地 (I a)

図幅の東南部にある風高峰 (288.5 m) 小松岳付近は中起伏量の山地 (I a-1) をなし、その西側に小起伏量を示す白岳山地 (I a-2) が隣接している。風高峰山地との境界付近に遷移点が分布し、また白岳山地内の標高200 m前後の地点にも遷移点が所在する。東側は大村湾に臨む山麓地 (I a') があり、小松岳山地との境界線上、標高100 m前後の地点に遷移点が配列する。

中位溶岩台地上には小起伏量を示す虚空蔵山火山 (I b-1) が噴出して、臼状火山の型態を示している。

西岸に孤立する釜敷山は小起伏量の山地 (I c) で、山頂部には、玄武岩がメーサ状に僅かに残存している。

### 2-2 丘陵 (II)

#### 2-2-1 太田和丘陵地 (II a)

西彼杵半島西岸の太田和丘陵地は緩傾斜を示し、高位溶岩台地 (III a) と境には、アーチ状の急崖があり、古い地すべり現象によつて形成されたものと考えられる。

#### 2-2-2 中浦丘陵地 (II b)

白岳小起伏山地の西に起伏する丘陵地で、南串島もこれに属する。七釜鐘乳洞は、石灰質を含むこの第三紀丘陵に発達した洞穴である。

#### 2-2-3 大島・寺島丘陵地 (II c)

大島は百合岳 (193 m) を中心とする第三紀層の丘陵で、ケスタ地形を呈し、西岸には岩石段丘が発達する。

#### 2-2-4 崎戸島丘陵地 (II d)

標高70 m内外の第三紀層の丘陵地で、丘陵上は人工的に平坦地化され、炭住アパート群が立地したが、現在廃墟となつている。

#### 2-2-5 佐世保西南丘陵地(Ⅱe)

佐世保港西岸の丘陵地で、赤崎岳(240m)は第三紀層上にみられるビュート化された玄武岩の残丘である。

#### 2-2-6 佐世保東南丘陵地(Ⅱf)

佐世保港東岸の第三紀の丘陵地で、住宅団地が造成されている。

#### 2-2-7 南九十九島丘陵地(Ⅱg)

佐世保市西岸は特に著しい溺れ谷の形状をなし、半島部や島々は起伏量50m以下の丘陵地をなす。西方は伊島までこれに属する。

### 2-3 台地(Ⅲ)

#### 2-3-1 奥野上位溶岩台地(Ⅲa)

白岳山地と中浦丘陵地の北側にある標高250m内外の平坦地で、両者との境界には遷移点が分布し、また太田和丘陵地との境界には急崖がある。

#### 2-3-2 木場中位溶岩台地(Ⅲb)

太田和川と木場川を結ぶ線を境として、奥野上位溶岩台地に隣接する。標高100m~200mの台地で、中央部に虚空蔵岳小起伏火山地を有し、台地は2~3段に分かれ、2~3列の遷移点を有する。

#### 2-3-3 針尾島中位溶岩台地(Ⅲc)

針尾島の北部及び中部に分布する標高150~200mの台地で低位台地に比べて、台地面上に起伏を生じている。

#### 2-3-4 俵浦中位溶岩台地(Ⅲd)

横瀬低位溶岩台地と共に、佐世保湾の湾口を扼する台地で、低位溶岩台地では集落は主に台地面上に立地しているのに対し、中位台地では、台地縁辺急斜面上に立地している。

#### 2-3-5 横瀬低位溶岩台地(Ⅲe)

丸尾川と高地川を結ぶ線以北の台地および針尾瀬戸兩岸の台地で、標高50~100mを示し、低平な台地上には柑橘園、集落が発達する。

#### 2-3-6 黒島低位溶岩台地(Ⅲf)

標高100m内外の台地で、南岸には海食崖の発達が著しい。集落は台地上と北岸の台

地縁辺急斜面上に分布している。

## 2-4 低地 (IV)

### 2-4-1 佐世保低地 (IV a)

佐世保港の沿岸は人工改変地で、造船ならびに港湾施設で占められている。

### 2-4-2 崎辺低地 (IV b)

佐世保港外にある人工改変地で、米草施設で占められたが、現在、返還されている。

### 2-4-3 面高川谷底平野 (IV c)

面高川は丹納を最上流として、低位段丘面を刻み緩流して面高川谷底平野を形成している。往時は虚空蔵山を水源としていたが、高地川にその上流部を争奪されたのである。

### 2-4-4 丸尾川谷底平野 (IV d)

丸尾～高地を結ぶ急崖下に発達する小規模な谷底平野である。

### 2-4-5 高地川谷底平野 (IV e)

虚空蔵山小起伏火山地の東麓を水源とする高地川はその支流が木場中位溶岩台地を刻み台地と縁辺傾斜面との間に遷移点をつくり、東西方向に直線的な本流と共に高地川谷底平野を形成している。

### 2-4-6 太田和川谷底平野 (IV f)

虚空蔵山小起伏火山地の火口付近に源を発する太田和川は途中に2～3段の遷移点をつくりながら太田和川谷底平野を形成している。

### 2-4-7 木場川谷底平野 (IV g)

木場川の上流は奥野高位溶岩台地を刻み、3～4個の遷移点をつくり、東流している。上流部では、太田和川の上流部と河川争奪をくりかえしている。これらの本流と木場中位溶岩台地を刻む支流とが木場川谷底平野を形成している。

### 2-4-8 伊佐浦川谷底平野 (IV h)

伊佐浦川の上流部は奥野高位溶岩台地を緩流し標高250m内外の地域に伊佐浦川谷底平野を形成している。白岳小起伏山地を刻む本川の中流部は峡谷状をなし、途中の遷移点近くの局地的な谷底平野のほかには谷底平野の形成はみられない。

#### 2-4-9 馬込人工改変地(IV i)

埋立による人工改変地で、現在大島造船所が建設されている。

#### 2-4-10 間瀬人工改変地(IV j)

ボタの埋立による人工改変地で、大島市街地はここに形成されている。

#### 2-4-11 蛤低地(IV k)

大島東南部の小規模な谷底平野であるが、坑道の落盤による地盤沈下の池や沼が形成されているのが特徴的である。大島、崎戸島の小河谷の各地で指摘される現象である。

#### 2-4-12 福浦人工改変地(IV l)

蛸ノ浦港東岸のボタの埋立による人工改変地で荷役施設がある。

#### 2-4-13 水浦人工改変地(IV m)

崎戸島東岸の急崖下に乗てられたボタによる人工改変地で、土地利用は行われていない。

(長崎大学教育学部 石井 泰 義)

## Ⅱ 表層地質

本図幅は、地質学的には佐世保炭田(北松炭田)南端部、西彼杵半島の北部、および崎戸・松島炭田の北部地域を包含する。

西彼杵半島の主体は西彼杵変成岩類に属する結晶片岩と、それに貫入する蛇紋岩よりなり、常に他の地質系統の基盤をなしている。しかし、呼子ノ瀬戸以西の大島、崎戸町に分布する含炭古第三紀層の基盤をなすものは、寺島の赤崎に露出する花崗岩である。

佐世保湾以北に分布する第三紀層の大部分は佐世保層群下部の相浦層である。この地層を被覆する玄武岩は、北に隣接する佐世保図幅内に広く分布する松浦玄武岩の続きであるが、浸食が進んでいるため丘陵の中腹以上に残丘の形で保存されるのにすぎない。一方、西彼杵半島北端部では、変成岩類と第三紀層の上に厚い玄武岩が発達する。下部の玄武岩の上には古期岩類の円礫よりなる面高礫岩や西海凝灰角礫岩が重なる。また上部の玄武岩には粗粒玄武岩を挟在する。

佐世保港外の黒島は、深月層に対比される第三紀層の上に重なる閃緑岩により構成され

ている。この火成岩体はおそらく岩床状に地層中に貫入したものと考えられている。

## 1 未固結堆積物

### 1-1 礫・砂 (海浜堆積層) g s

本図幅内では、南九十九島の沈水地形によつて代表されるように、海岸線は出入りのはげしい岩石海岸となつている場合が多いため、海浜堆積物の発達はきわめて貧弱である。円礫よりなる礫州状の海浜堆積層は、黒島西部や、面高港内に認められる。

### 1-2 礫・砂・泥 (沖積低地堆積層) g s m

西彼杵半島の面高川、高地川、江川内川などの下流部の谷は沖積層により埋積され、水田として耕作されている。佐世保港内の海岸地帯には顕著な沖積低地は発達していないが、海岸を土石によつて埋立てられた所が多い。

## 2 半固結堆積物

### 2-1 砂礫・粘土 (段丘堆積層)

西彼杵小迎付近の海拔60~80m付近に段丘砂礫層が発達する。礫には安山岩と石英(珪石)を多量に含むが、安山岩礫は風化して、いわゆる「くされ礫」の状態を呈している。また基質は著しく粘土化している。これに類似した堆積段丘は西海町天久保南西部にも発達する。

### 2-2 礫・砂 (八ノ久保砂礫層) H g s

西彼杵半島の北西部における下部玄武岩の上下にチャート・石英などの堅硬な古期岩類の円礫を含む砂礫層が発達する。本図幅内では「面高<sup>おもたか</sup>礫岩」とよばれているが、岩質と層的位置から、隣接する「佐世保図幅」内の八ノ久保砂礫層に対比される。面高では本砂礫層が西海凝灰角礫岩(T b)の基底部をなしている。



### 3 固結堆積物

#### 3-1 砂岩 (深月層) Nf

「佐世保図幅」内の北九十九島一帯に模式的に発達する本層は、本図幅内では黒島とその北の幸ノ小島および伊ノ島に分布する。最もよく露出する黒島では、主として堅硬な中粒砂岩よりなるが、砂質泥岩をひんぱんに挟んで細互層をなす部分もある。植物化石を産出する。

#### 3-2 砂岩・泥岩・石炭(相浦層) Sa1. Sa2. Sa3

佐世保層群の下部層の大瀬五尺とよばれる主要稼行炭層以下を相浦層としてまとめられる。非常に厚い地層(約600m)であるため、モエズ層と相浦三枚層の石炭層をもつて更に細分され、上位から上部(Sa1)の但馬岳<sup>たじま</sup>、中部(Sa2)の鹿子前<sup>かしまえ</sup>、下部(Sa3)の<sup>あまがた</sup>尼瀧の3亜層に分けられている。

地層はおもに塊状の中粒～粗粒砂岩よりなるが、層準により砂質泥岩や泥岩と互層し、また泥岩をともなつた薄い石炭層をひんぱんに挟在する。とくに石炭層の発達した地域では、かつて稼行されたこともある。中部相浦層に挟まれる石岳凝灰岩(りつ)を上限とする石岳砂岩層は、中粒、粗粒、含礫質砂岩よりなる厚層で、よく連続する断崖を形成する。上部相浦層には海生貝化石を豊富に含み、<sup>まさる</sup>真申化石帯として知られる。

#### 3-3 泥岩・砂岩薄互層(波多津泥岩層) Kh1

本図幅内では、佐世保市俵ヶ浦町、針尾西町および西彼杵半島北端などに分布する。大島では日切層とよばれ、西海岸にわずかに分布する。薄層の泥岩と砂岩の密互層を主体とするが、下部には塊状の細粒砂岩の厚層が発達し、風化すると顕著な玉ねぎ状構造を示す。

#### 3-4 砂岩・砂質泥岩(波多津砂岩層) Kh2

大島における塩田層であり、大島西部の塩田および太田尾付近くに分布する外、針尾島の鯛ノ浦のまわりの海岸に露出する。砂岩を主とし、泥岩を従とする地層であるが、上部に発達する玉ねぎ状風化を呈する暗灰色砂質泥岩は特徴的である。本層から貝化石を多産す

る。

### 3-5 砂岩（行合野砂岩層）Ky

大島の百合岳をつくる厚い砂岩を主とする地層であり、百合岳層とよばれるが、上部には砂岩泥岩互層となる。砂岩中に海緑石様の緑色物質を含む。

### 3-6 砂岩凝灰質泥岩互層（佐里砂岩類）Ks

大島と崎戸（蛸浦島）の徳万層に相当し、多くの流紋岩質凝灰岩を挟む砂質泥岩と薄層の砂岩との互層により特徴づけられ、唐津炭田のいわゆる「骨石帯」に対比される地層である。西彼町小迎の南、国道206号線ぞいの崖にも凝灰岩を挟んだ薄層理の発達した地層として認められる。また西海町太田和の南の202号線ぞいにも好露出がある。

### 3-7 砂岩・砂質石灰岩（間瀬層）Nm

大島、崎戸においては雲母に富んだ砂岩や石灰質砂岩よりなり、結晶片岩の細～中礫からなる礫岩を挟在する。本層中には貝化石の密集した「蛇ノ目砂岩」や異なつた石灰分をもつ互層によつて生ずる「波状砂岩」のように、特色ある岩相を呈する部分がある。

西彼半島の西部、中浦付近においては、石灰藻化石に富んだ砂質石灰岩が発達し、七ツ釜鐘乳洞をつくっている。第三紀層中の石灰洞としては本邦でも珍しい。

### 3-8 砂岩・泥岩・石炭（松島層群）Ms

基底礫岩からはじまり、貝や有孔虫化石を含む海成層（苺島層）をへて、主要炭層を含む陸水成層（崎戸層）に至る一連の地層であり、地表では大島東縁部にわずかに露出する。

### 3-9 礫岩・砂岩（赤崎・寺島層群）

本図幅内に分布する第三紀層の基底部をなす地層であり、寺島に発達する。おもに砂岩・礫岩および泥岩よりなるが、下部の赤崎層群には紫赤色～青緑色を呈する特徴ある岩相が含まれる。

## 4 火山性岩石

### 4-1 佐世保層群中の凝灰岩層(石岳凝灰岩層) t f

佐世保市鹿子前町、船越町などにおいて、相浦層中部に挟在する厚さ数  $m$  の安山岩質凝灰岩があり、広範囲に追跡できるため鍵層となる。この凝灰岩には小豆大の礫をもち、その上下盤には粗悪炭層を伴っている。

### 4-2 流紋岩質岩石 Ry

針尾島大崎付近の岩体の一部が本図幅内にあらわれる。産状はドーム状をなし、山腹に著しい急崖をつくる。一般に斑晶質で、斜長石の斑晶が認められるが、有色鉱物の含有量は少ない。

### 4-3 流紋岩質火山角礫岩および凝灰岩 Rb

佐世保市東浜海岸に、軽石に富む塊状の流紋岩質凝灰岩が露出し、その延長は中新町に及んでいる。基底部には流紋岩質の角礫岩を伴う。上限は玄武岩の溶岩流に覆われるため不明であるが、針尾島に分布する流紋岩の先駆的噴出物と考えられる。

### 4-4 安山岩質凝灰角礫岩 Tb

西彼杵半島北部の西海町と西彼町の一部に広く分布する凝灰角礫岩は、下部玄武岩(Ba2)の上に重なり、上部玄武岩(Ba1)に覆われ西海凝灰角礫岩とよばれている。角礫は大部分が安山岩であるが、玄武岩や石英礫も含まれている。面高川中流で行つた上水源ボーリング調査によれば、地表から80  $m$  までは本岩が続き、その下に厚さ5  $m$  の円礫岩があるが、下部玄武岩を欠いて直接第三紀層の泥岩の上に重なっている。面高や川内の地表においても凝灰角礫岩の下にはよく円磨された堅硬な礫よりなる面高礫岩(Hsg)が発達し、両者の関係は整合的である。

### 4-5 玄武岩 Ba

佐世保市周辺に広く分布する松浦玄武岩は本図幅内にも広く分布する。溶岩流として第

三紀層と結晶片岩を被覆している。種々の岩型が含まれ、溶岩ごとに多少の含有鉱物の相違がある。また赤色化した岩滓（スコリア）（Sc）を伴っている場合が多い。針尾島虚空蔵山、西海町虚空蔵山、高島番岳などにおいて、玄武岩溶岩に伴う岩滓層の発達は顕著である。

西彼杵半島北部では、西海凝灰角礫岩（Tb）を境として、噴出時期と岩型の異なる溶岩が認められ、上部（Ba1）と下部（Ba2）とが識別される。また上部玄武岩中に挟在する粗粒玄武岩（Do）はBa1から切離している。

大島沖の片島では柱状節理のよく発達した断崖をあらわしている。

## 5 深成岩

### 5-1 花崗岩 Gr

呼子ノ瀬戸に面した寺島東岸赤崎と、赤瀬および兜島<sup>かぶと</sup>には、著しく圧砕作用を受けた花崗岩が僅かに露出する。完晶質で、主成分鉱物は石英、カリ長石、黒雲母よりなり、間隙を充たして方解岩が生成している。

### 5-2 閃緑岩 Di

黒島の第三紀層を被覆する形で分布する閃緑岩は、おそらく深月層に岩床状に進入した火成岩体と思われる。暗緑灰色を呈し、主成分鉱物として斜長石、輝石、角閃石などがある。著しく深層風化を受けてマサ状を呈する所では、未風化の部分は玉ねぎ状構造をなし、中心部は堅硬な玉石として残留する。

### 5-3 蛇紋岩

蛇紋岩は伊佐ノ浦川上流と大串付近に広く分布し、貫入した結晶片岩の片理面に調和して帯状分布を示す。その周縁部には、交代作用によつて生じた滑石帯、陽起石帯、緑泥石帯などが知られ、とくに滑石帯は滑石（タルク）鉱床としてしばしば採掘されたことがある。

## 6 変 成 岩

### 6-1 黒色片岩 Bs

西彼杵半島を構成する西彼杵変成岩類は、殆んど大部分が黒色片岩よりなり、常に他の地質系統の基盤をなしている。岩質は、肉眼的な曹長石の変斑晶をもつ点紋絹雲母石英片岩である。

片理面は東部では東へ強く傾斜し、西部では北西にゆるく傾く。また北部では走向が東西性となり、北に傾斜する。従って、全体的にNNE方向の北に沈む軸をもつ半ドーム構造が考えられ、西彼杵背斜とよばれている。

## 7 応用地質

### 7-1 地質災害

西彼杵半島の結晶片岩地帯における道路の切取面では、しばしば流れ盤による崩壊・落石が発生する。しかし、片理面の方向に注意すれば災害を未然に防止することができる。

本図幅内における地すべり防止指定区域は佐世保市須田尾地区のみであり、北隣りの佐世保図幅における60カ所と比べると極端に少ない。

### 7-2 鉱床（地下資源）

佐世保炭田南部の相浦層や、崎戸・松島炭田の崎戸夾炭層の石炭はかつては採掘されていたが、現在では操業している炭鉱は一つも残っていない。

黒色片岩中に含まれる石英脈より、しばしば珪石が採掘されてきた。本図幅内では、西海町川内では脈幅2mのものが採掘され、高級レンズ用として出荷された。また西彼町七浦池付近では脈幅70～80cmの石英脈が採掘されたことがある。蛇紋岩にともなう滑石鉱床は、伊佐ノ浦川上流において採掘され、石筆の原料として大串の工場に送られたことがあるが、品質が輸入品より劣るため現在は全く掘られていない。

### 7-3 採 石

建設用骨材として、佐世保市庵ノ浦町と、西海町黒口・太田和付近において、玄武岩の

採石が行われ、バラスとして出荷している。

今回の調査で測定されたバラスの平均比重と吸水量は、庵ノ浦地区では比重 2.844、吸水量 1.006%、また西海町の下部玄武岩では比重 2.822、吸水量 0.016%であった。

黒島では、閃緑岩の風化帯中に残留する玉石が掘起され、石碑や墓石の原石として「黒島みかげ」の名で出荷されている。

(長崎大学教育学部 鎌田 泰彦)

### 主 要 参 考 文 献

- 地質調査所(1965) ; 20万分の1地質図幅「長崎」
- 古川俊太郎(1969) ; 佐世保炭田佐世保市南西部地域地質図ならびに説明書  
日本炭田図 IX・1-35。地質調査所
- 井上英二(1964) ; 西彼杵半島西部の古第三系ならびに西彼杵層群下部の  
堆積環境 地調月報 15, 3, 28-50
- 岩橋 徹(1961) ; 佐世保炭田に分布する相ノ浦層群の総括的層序。岩相変  
化。堆積状況について-「佐世保炭田」の研究(その3)  
九州大学理研報(地質)5, 3, 111-128
- 鎌田泰彦(1968) ; 長崎県西彼杵。野母半島の珪石鉱床  
九州鉱山誌 36, 11, 1-10
- 長浜春夫・松井和典(1958) ; 5万分の1地質図幅「蛸ノ浦」同説明書1-66  
地質調査所
- 長浜春夫(1962) ; 長崎県崎戸松島炭田、子ノ瀬戸断層運動について  
地質学雑誌 68, 799, 199-208
- 野田光雄・牟田邦彦(1957) ; 長崎県西彼杵半島の地質構造  
九州大学教養地学研報 4, 17-21
- 阪田和則・迎 満康(1969) ; 西彼杵半島北東部及び針尾島南西部の地質につ  
いて 南窓(佐世保南高)15, 6-12

佐世保市企画部（1966）； 佐世保市地質図（付ボーリング柱状図）佐世保市役所  
 内田義信・牟田邦彦（1958）； 北部九州の滑石鉱床（第2報）—西彼杵型滑石  
 鉱床について— 地質学雑誌 64, 757, 494-515

地層および岩石一覽

（佐世保南部図幅）

地質時代		地質系統		表層地質分類		
新 生 代 紀	第四紀	(現世) 沖積世	埋立地	e	土石	未固結 堆積物
			海浜堆積物	gs	礫, 砂	
	沖積低地堆積物		gsm	礫, 砂, 泥		
	第四紀	洪積世	段丘堆積層	t	砂礫・粘土	半固結 堆積物
			鮮新世		Ba	玄武岩 (Ba1, Ba2, Do を含む)
	第三紀	鮮新世	松浦玄武岩類	Sc	岩滓 (スコリア)	
			西海凝灰角礫岩	Tb	安山岩質凝灰角礫岩	
			八ノ久保砂礫層 (面高礫岩)	Hgs	礫・砂	半固結 堆積物
			流紋岩類	Ry	流紋岩質岩石 (Rbを含む)	火山性岩 石
	中新世	中新世	黒島閃緑岩	Di	閃緑岩	深成岩
貫入						
野島層群			深月層	Nf	砂岩	固結 堆積物
佐世保層群			相浦層	上部	Sa1	
	中部	Sa2				
	下部	Sa3				

古 第 三 紀	漸新世	杵島 (西彼杵) 層群	波多津泥岩層(日切層)	Kh1	泥岩砂岩薄互層	固 結  堆 積 物
			波多津砂岩層(塩田層)	Kh2	砂岩. 砂質泥岩	
			行合野砂岩層(百合岳層)	Ky	砂 岩	
			佐里砂岩層(徳万層)	Ks	砂岩凝灰質泥岩互層	
			間瀬層	Nm	砂岩. 砂質石灰岩	
	松島層群		Ms	砂岩. 泥岩. 石炭		
	始新世	寺島, 赤崎層群	cgss	礫岩. 砂岩		
先 第 三 紀		庄碎花崗岩 断層	Gr	花 崗 岩	深 成 岩	
		蛇 紋 岩 貫入	Sp	蛇 紋 岩		
		西彼杵變成岩類	Bs	黒色片岩	變 成 岩	



## Ⅲ 土 壤 図

### 1 山地の土 壤

#### 1-1 土 壤 の 概 要

西彼杵半島北端と佐世保市の一部、大島、黒島等の島嶼が図幅に含まれる。玄武岩地帯は暗赤色土壌が主体となり、半島の一部と大島に乾性褐色森林土が分布する。第三紀層を母材とする地域には一部に赤褐色系の乾性褐色森林土がみられ、佐世保を中心として黄褐色系の土壌が広がっている。全般に海風の影響が強く、乾性土壌の比率が高い。

#### 1-2 細 説

##### 1-2-1 乾性褐色森林土 壤

大部分は大島町等第三紀層を母材とする地域に分布し、スダジイを主とする広葉樹の二次林に覆われている。ヒノキ植栽にも利用されているが、生産力は低い。しかし西海町の玄武岩を母材とするところは、地形はゆるやかであり、人工林率が高く生産力もそう劣らない。

##### 1-2-2 乾性褐色森林土 壤(黄褐色)

佐世保市周辺の三紀層低山地帯と西彼半島の海岸沿いに点在する。大部分はスダジイ林にマツ混在といった林相だが、ヒノキの人工林もみかける。海風のために生長は悪い。

##### 1-2-3 乾性褐色森林土 壤(赤褐色)

佐世保湾口北部の第三紀層に附随して認められる。天然のマツ林が多い。海風の影響が極めて強く生産力は低い。

##### 1-2-4 褐色森林土 壤

大田和附近の沢沿いに小面積存在する。スギ、ヒノキが植栽され、生長は良好である。

##### 1-2-5 暗赤色土 壤(乾性)

西彼半島、玄武岩地帯に広く分布する。乾燥の度合いが比較的小さいものが多く、造林された樹木は揃って結構伸びている例が多い。耕地周辺のものにはマツ、広葉樹の混交林とし

て残され、森林地帯ではよく造林されている。

### 1-2-6 暗赤色土壌

スギ、ヒノキの人工林にひろく被われている。風衝の心配が少ない地形に恵まれ生長も良い。

## 1-3 山地の土壌と土地利用

海の影響が非常に強く、図幅では最も海岸比距が大きい西彼半島の背陵部にもトベラ・シヤリンバイ・ハマヒサカキ・ハマビワ等海岸近くに多いとされる植物が普遍的にみられる。最近の拡大造林地のひろがり方は急速で、かなり無理をした造林地も既に目につき始めている。これに関連し、又、一時の緑化樹ブームに乗ったタブ・ヤマモモ・ホルトノキ・ユズリハ・モツコク等広葉樹の山掘り養苗が盛んに行なわれている。

これからは、人工造林の好適地はますます減少するのは必至であり、林木の適性と苛烈な自然条件を軽視した、やみくもな開発は戒められねばならない。

(長崎県総合農林試験場 松尾俊彦)

## 2 丘陵台地の土壌

### 2-1 土壌の概要

東部は佐世保湾をはさんで庵の浦、俵ヶ浦の半島、針尾島および西彼半島北部が対峙している。本地域は第三紀層を基盤としその上部は、玄武岩に覆われて台地を形成し、河川は発達していない。台地の土壌は玄武岩の風化物を母材とする赤色土壌、黄色土壌が多く一部に暗赤色土壌が分布し畑地および水田として利用されている。

低地土壌は少なく海岸近くの低地にはグライ土壌が分布し、西海町の一部に褐色低地土壌が分布している。

東南部は結晶片岩の風化物を母材とする土壌が大部分で一部に蛇紋岩第三紀層の風化物を母材とする土壌が分布している。西彼山地からつらなる丘陵地には黄色土壌が多いが赤色土壌、グライ土壌も分布している。低地の発達は少ない。

南部には崎戸町、大島町が位置し、第三紀層の風化物を母材とする黄色土壌が主体で、海岸近くにグライ土壌が分布している。

北西部には黒島があり、内緑岩の風化物を母材とする赤色土壌が分布している。

#### 2-2-1 赤色土壌

下層土の土色が5 YR 4 / 4より赤い土壌である。玄武岩、閃緑岩、結晶片岩の風化物を母材とする土壌で表土の土性はCL~LiC、下層土はLiC~HCである。台地および丘陵斜面に分布し、主としてミカン、野菜、飼料作物、麦、甘藷等が栽培されている。

#### 2-2-2 黄色土壌

下層土の土色が5 YRより黄色味の強い土壌である。表土の土性はL~LiC、下層はCL~HCである。玄武岩、結晶岩および第三紀層の風化物を母材とする土壌が含まれる。台地および丘陵斜面に分布し、甘、麦、飼料作物、ミカン、野菜等が栽培されている。

#### 2-2-3 黄色土壌(湿性)

黄色土壌のうち鉄、マンガンの斑紋結核を有する土壌である。表土の土性はCL~LiC下層土はCL~HCである。玄武岩の風化物を母材とする土壌が大部分であるが、一部に結晶片岩、安山岩の風化物を母材とする土壌が分布している。

#### 2-2-4 暗赤色土壌

赤色土壌に似ているがそれよりも明度、彩度ともに低く、下層土の土色は5 YR 4 / 4又はそれ以下である。表土の土性はCL~LiCで下層土はLiC~HCである。玄武岩の風化物を母材とする土壌で野菜、ミカン、甘藷、麦等が栽培されている。

#### 2-2-5 暗赤色土壌(湿性)

暗赤色土壌で鉄、マンガンの斑紋結核を有するものである。表土の土性はLiC、下層土はHCであり、地表下30cm前後にマンガンの集積層(盤層)を有することがある。玄武岩の風化物を母材とする土壌で西海町に僅かに分布し、水田として利用されている。

#### 2-2-6 褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の土壌で、鉄、マンガンの斑紋結核を含む。玄武岩系の低地土壌で表土の土性はLfC、下層土はLiC~HCである。水田として利用されている。

#### 2-2-7 粗粒褐色低地土壌

下層の土色が黄褐の土壌で地表下30cm前後以下礫層を有する。表土の土性はCL~

L i Cである。水田として利用されている。

#### 2-2-8 細粒グライ土壌

作土直下グライ層か地表下30~50cm以下グライ層を有する土壌である。低地グライと台地グライが含まれ、鉄の斑紋を有する土性は表層、下層土ともにL i C~HCである。水田として利用されている。

#### 2-2-9 グライ土壌

作土直下グライ層か地表下30~50cm以下グライ層を有する土壌である。土性は表土下層土ともにS i Lで鉄の斑紋を有する。

佐世保に僅かに分布し水田として利用されている。

#### 2-2-10 粗粒グライ土壌

作土直下よりグライ層を有する低地土壌および台地土壌で地表下40cm前後以下際層を有する。表土の土性はL~L i C、下層土はC L~HCである。鉄の斑紋を含み、マンガンの結核を有する台地土壌もあり、水田として利用されている。

(長崎県総合農林試験場 小野末太)

## IV 傾斜区分

山地の傾斜は西彼杵半島の小松岳山地では、白岳や風高峰付近でS5が示されるが、S4が広範囲を占め準平原山地の特色を現わしている。東部の山麓地ではS3となり、西部の中浦丘陵地ではS3~S2を示し、S3面とS2面との間にS4面を介在するのが特徴的である。釜敷山では山麓傾斜がS4を示し、山頂部がS2~S3と緩傾斜になつている。

奥野高位溶岩台地面はS3が広範囲を占め、北側にS4~S5の急傾斜面を有する。西側にはS7を示すアーク状の急崖があり、古い地すべりの滑落崖と思われる。この急崖は、この図幅においては内陸部における唯一のS7である。崖下の太田和丘陵地ではS2の緩傾斜面になつている。

虚空蔵山火山地では旧火口付近でS4、火山山麓でS3が示され、この火山をのせている木場中位台地面はS2となつている。また、縁辺急傾斜面はS5の数値を示す。

西彼杵半島北端部の横瀬低位台地では、台地面ではS 2の緩傾斜面で、縁辺急傾斜面ではS 4～S 6が示され、東部でS 4、北部でS 6、西部ではS 7を示す海食崖が発達している。

この台地と共に佐世保湾の湾口を扼する俵浦中位台地面ではS 2～S 4が示され、低位台地面に較べて急な斜面を示している。このことは低位台地に較べて平坦面の浸食が進んでいることを意味するものであろう。針尾島中位台地も同様である。

黒島低位台地は台地面ではS 3が広範囲を占め、全島S 4～S 7の海食崖で囲まれている。

佐世保港周辺の山麓地。丘陵では弓張岳や烏帽子岳の山麓地でS 4を示し、西南丘陵地ではS 4斜面上に石岳や赤崎岳の溶岩ドームがS 5～S 6を示し石岳の南側にはS 2を示す平坦面がある。東南丘陵地はS 3～S 4の傾斜面でS 1～S 2の平坦面を伴っている。

図幅西南部の大島では百合岳の東北-西南方向の山稜を境として西側の大半はS 3～S 4の傾斜を示し東側ではS 5～S 6の急斜面を示し、蛤の東方でS 3、さらに山稜を東に越えるとS 6～S 7、さらに寺島では西側はS 4、東側はS 5を示し、ケスタ地形の特徴が傾斜区分に明瞭に表現されている。

蛸ノ浦島も同様の傾斜面がみられるが、丘陵上が人工的に平坦化されている。大島、蛸ノ浦島共にS 7を示す海食崖が発達し、蛸ノ浦島では特に東岸に著しい。

(長崎大学教育学部 石井 泰 義)

## V 水 系 . 谷 密 度

本図幅にみられる河川は、西彼杵半島の河川と北松浦半島南部の河川ならびに離島河川の3つに大別される。

西彼杵半島の河川に属する伊佐ノ浦川は源を奥野上位溶岩台地(Ⅲ a)に発し、白岳小起伏山地(I a-2)を経て角力灘に入る。上流は標高280mの台地上を1/1000～2/1000の勾配で緩流し、水田地帯を伴い10/100～20/100の遷急点を流下し、白岳山地内では、4/100～6/100の急勾配で峡谷をつくっている。この峡谷内では、標高150m、50mの2地点で緩流部と遷移点が指摘される。七釜川も奥

野台地（Ⅲ a）から遷移点を経て中浦丘陵地（Ⅱ b）を刻んで流れる。風高峰山地（Ⅰ a-1）に源を発し、大村湾に流入する河川は風高峰山地と山麓地（Ⅰ a'）との境界線上に遷移点を有する。西流する河川に比べて短小で急勾配の河川である。木場川は奥野台地（Ⅲ a）源を発し、北流して瀬川港に入る。

その一支流は、太田和川と共に奥野台地（Ⅲ a）と木場台地（Ⅲ b）とを区切っている。両川はその上流において河川争奪の行なわれた地形が残存する。木場台地（Ⅲ b）と横瀬台地（Ⅲ e）との境界には丸尾川。高地川が流れ、高地川は虚空蔵火山地に源を発するが、上流部は面高川の上流を争奪したものである。面高川は横瀬台地（Ⅲ e）のほぼ中央部を、東南—西北方向に流れ、台地を二分している。

北松浦半島の河川としては、佐世保川の最下流部がみられるのみで、半島部には急勾配の短小な溪流があるだけである。

離島河川はすべて急勾配の短小な溪流をなすにすぎないが、大島、崎戸島では分水嶺が東に偏在し、ケスタ地形が水系に表現されている。

谷密度は西彼杵半島の小松岳山地（Ⅰ a）ならびに奥野台地（Ⅰ c-1）で30～40を占め、小松岳山地の中央部では40台にのぼる。山麓地（Ⅰ a'）や太田和、中浦丘陵地（Ⅱ a, Ⅱ b）。木場、横瀬の台地（Ⅲ b, Ⅲ e）では20～30が占される。

北松浦半島南部の佐世保西南、東南丘陵地（Ⅱ e, Ⅱ f）では20～30の数値が示され、特にビュート状に残丘化された赤崎岳付近では30～40となつている。離島では崎戸島で30～40の高い数値が示され、黒島の中央部では20～30、崎戸島は10～20、寺島や南九十九島丘陵地（Ⅱ g）では10以下で谷密度は極めて小さい。

（長崎大学教育学部 石井泰義）

## Ⅵ 防 災 図

### (1) 地すべり防止区域

地 域 名		所 在 地		地域面 積(ha)	家屋数 (戸)	告 示 年月日	地すべり地 の 概 況 発生年度	所管
区域名	関 係 河川名	都 市	町 村					
須 田 尾		佐世保市	須田尾町	6.62	97	37.11.14	大正12	建設

資料；県河川砂防課、耕地課、林務課調

### (2) 砂 防 指 定 地

番 号	河 川 名		所 在 地	指 定 関 係 事 項		着 工 年 度	竣 工 年 度
	幹川名	溪流名		告示年月日	面積(ha)		
	伊佐浦川	伊佐浦川	西彼杵郡西海町	39. 3. 17	18.74	39	40
	綿打川	綿打川	〃 西彼町	42. 3. 22	2.41	42 43	42 44
	福石川	福石川	佐世保市木風町	41. 5. 26	0.83	39	40

資料；県河川砂防課調

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

番号	指定区域名	所在地	告示年月日	面積 (ha)	人家 (戸)
1	大 黒	佐世保市	4 5. 7. 1 0	1. 5	5 1
2	福 石	"	4 6. 5. 1 1	0. 2 9	1 0
3	小 郡	西 海 町	4 6. 2. 2 5	1. 8 0	4 1
4	面 高	"	"	1 1. 5 0	1 0
5	黒 口	"	"	1. 7 0	2 6
6	東 本 町	崎 戸 町	"	0. 5 6	2 5
7	金 比 良 町	"	"	0. 5 4	2 1
8	椿 町 本 町	"	"	1. 3 7	3 6
9	日の出町東町	"	"	2. 1 0	7 8

資料；県河川砂防課調

## Ⅶ 開 発 規 制 図

(1) 国 立 公 園

西 海 国 立 公 園

面積            2 4. 3 2 4 h a  
 指 定            昭和 3 0 年 3 月 1 6 日  
 区 域            佐世保市、福江市、平戸市外 1 6 町



(2) 県立公園

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
西彼杵半 島県立 自然公園	S41. 1. 11 46. 5. 4 (追加)	6市町村	3,065.5ha	ピクニック	丘陵景観・海岸 景観地域 西彼山系 ホマーテ 鐘乳洞 岩石海 海岸
		西海町	644.0	ハイキング	
		大島町	269.0	キャンプ	
		崎戸町	95.0	フィッシング	
		大瀬戸町	881.0	海水浴	
		外海町	1,044.0		
		長崎市	132.5		
大村湾県 立 自然公園	S41. 1. 11	9市町計	2,235.0	ピクニック	海洋景観地域 リアス式海岸 海峡・多島群 内陸海岸 鉾 泉
		大村市	139.0	フィッシング	
		東彼杵町	130.0	セーリング	
		川棚町	311.0	海水浴	
		佐世保市	104.0	宿泊保養	
		多良見町	215.0		
		長与町	150.0		
		時津町	295.0		
		琴海町	531.0		
西彼町	360.0				

資料： 県立自然公園調書（県自然保護課）

(注) 1. 面積は図上測定である。

2. 印は本図葉内関係市町村

(3) 保 安 林

市町村名	総 数		水 源 かん養村	土砂流出 防 備 林	土砂崩壊 防 備 林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面 積						
佐世保市	45	1,189.50	896.92	203.85	66.10	5.75	16.88	
西 彼 町	4	5.60	—	—	—	—	5.60	
西 海 町	28	713.49	703.88	—	—	8.39	1.22	
崎 戸 町	8	0.62	—	0.21	—	0.02	0.39	
計	85	1,909.21	1,600.80	204.06	66.10	14.16	24.09	

資料：長崎県の林業（林務課）

(4) 風 致 地 区

名 称	面 積 ( h a )	市 町 村 名
渡 越 風 致 地 区	2 9 1 . 0	佐 世 保 市
九 十 九 島 風 致 地 区	1 , 8 7 9 . 4	”
福 石 観 音 風 致 地 区	2 . 8	”

資料：県都市計画課調

(5) 鳥 獣 保 護 区

名 称	区域(ha)	指 定期間	名 称	区域(ha)	指 定期間
県設亀岳大串鳥獣保護区	890	S46.11.1~ 51.10.31	県設佐世保市霊園鳥獣保護区	110	S48.11.1~ 58.10.31
県設福石観音鳥獣保護区	2	S42.33.1~ 52.33.0	県設犬島西中学校愛護林鳥獣保護区	49	S43.11.1~ 53.10.31

資料；長崎県鳥獣保護区概要図（昭和49年度）

(6) 都 市 計 画 区 域

区 域 名	区域内市町村名	範 囲	面 積	市 街 化 区 域	市 街 化 調 整 区 域
佐 世 保	佐世保市	行政区画の一部	23900	3970	19930
大 島	大 島 町	" の一部	392	—	392
崎 戸	崎 戸 町	" の一部	534	—	534

資料；県都市計画課調

（注） 印は本図葉内関係市町村

(7) 宅 地 造 成 規 制 区 域

佐世保宅地造成規制区域      2,356ha

1975年3月 印刷発行

県北総合開発地域  
土地分類基本調査

## 佐世保南部

編集発行 長崎県企画理事付企画主幹  
(土地対策担当)

長崎市江戸町2-13

印刷 (株)富士マイクロサービスセンター

熊本市水前寺6丁目46-1